重層的な「知の継承」

東京大学経済学図書館創設 120 年／アダム・スミス文庫寄贈 100 年 記念オンライン講演会

福 田　名 津 子

1. 開催概要

2020 年 12 月 19 日に、東京大学経済学図書館主催のオンライン講演会「知の継承（バトン）」が開催された。2020 年は、東京大学経済学図書館創設 120 年およびアダム・スミス文庫寄贈 100 年にあたり、これらを記念してのことである。東京大学経済学図書館の前身である経済統計研究室は 120 年前の 1900 年 5 月に創設、アダム・スミス文庫[1)]は 100 年前の 1920 年 12 月 21 日に新渡戸稲造から寄贈されている。オンラインで開催された本講演会の参加者は 146 名（のべ 208 名）を数えた。

会は、谷本雅之（東京大学経済学図書館長）による挨拶に始まり、組織の沿革「経済学図書館 120 年のあゆみ」（小島浩之 経済学部資料室講師）、第 1 講演の野原慎司（東京大学大学院経済学研究科准教授）「東京大学大学院経済学研究科の蔵書から」、第 2 講演の有江大介（横浜国立大学名誉教授・東京大学大学院経済学研究科客員研究員）「新渡戸稲造は買った「スミス文庫」を読んだのか？」、オンライン見学「東京大学経済学図書館貴重書収蔵庫の現状」（森脇優紀 経済学部資料室特任助教 解説）、第 3 講演の高哲男（九州大学名誉教授）「私のスミス研究と東京大学経済学図書館の「アダム・スミス文庫」」と続き、質疑応答・総合討論を経て終了した。オンライン開催の利点に、会場の収容能力・参加者の移動という物理的制約から解放されたことがあり、とりわけ貴重書収蔵庫の内部を参加者全員が同時視聴できたことは意義深い。ほとんどの機関で貴重資料の閲覧は職員の出納により、収蔵庫への立入りは原則的に認められていないところ、今回は約 150 名もの参加者がインターネット回線を通じて入庫して所蔵資料の全容と一部資料の詳細を知ることができた。

本稿では 3 本の講演を紹介したうえで、旧蔵書が持つ意義と限界、書物を通じた重層的な知の継承について述べる。

2. アダム・スミス旧蔵書の意義と構成

第 1 講演の野原慎司「東京大学大学院経済学研究科の蔵書から」ではおもに、アダム・スミス旧蔵書の全体および東京大学所蔵分についてその意義が報告された。現在は世界各地に分散しているスミスの旧蔵書を全体として見れば 2 つの人類史的意義が指摘できる。第 1 に、近現代では人間・社会・世界を解明するのは学問、「生き方」については宗教という乖離が生じたのであるが、スミス旧蔵書にはその世俗的決着を象徴する作品群が含まれている。すなわち神学と法学を分離する方向に進んだプーフェンドルフら、あるいは既存の神学ドグマに懐疑を示して距離を取ったピエール・ベールらの作品である。後者には、デイヴィッド・ヒューム『人間本性論』も含まれ、1739 年に出版された初版第 1 巻は東京大学のスミス文庫に含まれている。第 2 の人類史的意義として、人類を普遍的に突き動かす「境遇の改善」欲求とその衝突・競争の原理を扱った作品群が含まれている。すなわち、「万人の万人による闘争」状態か

ら脱するには主権者への絶対的服従が必要であるとしたトマス・ホッブズ[2)]、利己心には制限が必要としつつ人間の社交性を強調して他者との衝突を緩めたプーフェンドルフやフランシス・ハチスン、利己心に基づく競争は不平等と悪徳を生むとしたジャン=ジャック・ルソーなどの作品である。スミスの場合は利己心・境遇の改善欲求とも全面的に肯定したうえで、それが社会を破壊するのでなくむしろ繁栄をもたらす仕組みを明らかにしたのであるが、こうした立場はホッブズやハチスンら先人たちの知的営みを踏まえて構築されたものであった。

続いて、東京大学経済学部資料室所蔵のアダム・スミス文庫の構成を分析すると、通説の「経済学者スミス」「道徳哲学者スミス」いずれの範囲にも収まらない広範な知的好奇心を持った像が浮かび上がる。第 1 に、旅行記の収集から「世界への関心」が窺える。初期近代は、貿易や宣教を目的にヨーロッパ人が世界中を旅した時代であり、現地での体験は旅行記という形で記録された。一部には不正確な記述や偏見も含まれていたが、旅行記はヨーロッパの外に広がる多様な世界について新しい情報をもたらした。当時の知識人にとって旅行記は愛読書の 1 つであり、スミスにとっても例外でなかった。第 2 の特徴に「博物誌の愛好」がある。スミス文庫には、ビュフォン『博物誌』およびリンネ『自然の体系』とも含まれている。ビュフォンは、古典古代の書物や聖書に依拠した生物観から脱却し、観察と推測に基づく新たな生物観を提示した人物である。一般に自然科学との関連性において、ニュートン主義のスミスへの影響が語られることが多いが、博物誌の影響もまた窺い知れる。第 3 の特徴に、「イタリア叙事詩の愛好」がある。スミス文庫にはタッソやアリオストの作品が含まれており、両者ともルネサンス期の叙事詩人として知られる。タッソ『エルサレム解放』は第 1 次十字軍によるエルサレムの解放に関する叙事詩で、アリオスト『狂えるオルランド』はシャルルマーニュ活躍の時代を背景とした騎士道物語である。以上より、経済学・政治学・道徳・法学のみならず、文学・詩・芸術・旅行記・博物誌など多岐にわたるスミスの知的関心が明らかになった。

東京大学所蔵のスミス文庫が持つ最大級の価値として、本人が作成を命じたといわれるアダム・スミス蔵書目録（1781）[3)]がある。ジェームズ・ボナーによるスミス蔵書目録[4)]の不備を水田洋が発見した主なきっかけは同目録にあり、水田はその後丹念な調査を経てより正確な目録[5)]を作成することになった。また、各蔵書の余白に記された書込みにも価値がある。スミス本人の手によるものであれば彼の思考断片を、他者によるものであるなら書物が所蔵者を変えて受容されていく痕跡を示している。書込みにはエディンバラ大学ニコラス・フィリップスン[6)]とグラスゴー大学のクレイグ・スミスも関心を寄せており、日英間で共同調査も行われている。

3. アダム・スミス文庫と新渡戸稲造

第 2 講演の有江大介「新渡戸稲造は買った「スミス文庫」を読んだのか？」[7)]では、新渡戸稲造がスミス旧蔵書を発見・購入して東京帝国大学に寄贈した経緯、購入後にスミス文庫を読んだか否か、どのようにスミスを受容したかについて報告された。第 1 に購入の経緯について、新渡戸は国際連盟事務次長という立場で 1919 年 7 月 18 日から 1920 年 11 月 4 日までロンドンに滞在しており、彼がスミス旧蔵書を発見・購入したのは 1920 年 7 月の出来事であった。もとより愛書家で集書家でもあった新渡戸はデュロー（Dulau & Co.）という古書店からスミス旧蔵書が売りに出されていることを知り購入を即決、東京帝国大学経済学部宛てに発送を手配した旨を、1920 年 7 月 23 日付山崎覚次郎宛書簡に記している。デュローは理

科系の書籍を取り扱う古書店で、東京大学のスミス文庫にビュフォンやリンネが含まれている事実と符合する。新渡戸が書店の目録を見て購入するまではわずか数日、その目録もさほど仔細でなかったと見え、購入の決断は内容を精査したうえでというより、スミス旧蔵書が持つ「宝物」感にあったと推察される。上述の山崎覚次郎宛書簡には、「今日実際上の御参考にはならずとも経済学者の宝物とも申すべきものと被存候（そんぜられそうろう）に付、右を新設経済学部へ寄贈致度候（いたしたくそうろう）」と表現されている。

また、スミス旧蔵書購入の外在的な要因として、新渡戸本人の学内での傍流的立ち位置や、私学・高商系・京都帝国大学などの経済学部と比べて東京帝国大学のそれが相対的に低評価であったことが考えられ、自身および大学の評判を上げることへの期待があったと考えられる。新渡戸が数々の兼職から十分な資産を築いていたこと、もとより集書家であったこと、経済に限定せず博識な教養人であった事実も、スミス旧蔵書の購入を後押しした。

第 2 に、新渡戸はスミス文庫を購入後に読んだか否かであるが、結論としては否の可能性が非常に高い。同文庫寄贈後に、彼は日本に 3 回戻っている。1924 年 12 月 8 日帰国の際には 2 か月強、1927 年 3 月 16 日帰国の際には約 5 年 1 か月、1933 年 3 月 24 日帰国の際には約 4 か月半それぞれ日本に滞在している。滞在中は全国各地の中等・高等教育機関を訪れ、i) 国際連盟、ii) 東西文化・政治比較、iii) アメリカ紹介、iv) 女性論、v) 日本政治批評、vi) 生活・教養・モラルなど多岐にわたって講演をこなす多忙ぶりであった。東京帝国大学を正式に訪問したのは 1924 年 12 月の 3 日間連続講演のみであることも考慮すると、スミス文庫の各冊を精査したり読みふけったりという時間は想定しにくい。

第 3 に新渡戸のスミス受容については、植民論を除いて積極的な痕跡は見いだせない。矢内原忠雄編『新渡戸博士植民政策講義及論文集』第 2 章「植民の理由・目的・利益」にスミスへの言及があるものの、植民地経済論というより植民地政策論・運営論への関心を反映し、新興帝国主義国「大日本帝国」の重要課題と合致している。新渡戸の旧蔵書のなかに確認できたのは、デュガルド・ステュアート版『スミス著作集』全 5 巻のうち第 4 巻『国富論』（第 5 編を収録）および第 5 巻『哲学論文集』、マクミラン社の『国富論抄録』のみであり、新渡戸本人のものと思われる書込みからは経済理論への関心が窺えない。また、スミス道徳理論の根幹をなす同感理論への応答が新渡戸の著作にないのは、もとより『道徳感情論』を読んでいなかったか、あるいはキリスト教倫理からかけ離れたスミスの理論をクエーカーという立場から受け入れなかった可能性が考えられる。

4. アダム・スミスの生物学的思考[8)]

第 3 講演の高哲男「私のスミス研究と東京大学経済学図書館の「アダム・スミス文庫」」では、スミスにおける生物学的思考について報告がなされた。水田洋作成のアダム・スミス文庫目録[9)]によれば生物学 botany に関する文献は 15 点あり、うち東京大学の所蔵は 8 点と最大数を誇る。

自然価格論研究を中心にした従来の研究で、スミスの科学方法論はニュートン的・物理学的と理解されてきたが、実際はむしろ生物学の影響のほうが大きい。スミスは 1785 年のロシュフコー宛書簡で、哲学・詩・修辞学など様々な分野に関する哲学的な歴史と、法と統治の歴史・理論という 2 種の構想を述べており、遺稿である『哲学論文集』は前者の構想を反映した内容となっている。1780 年のホルト宛書簡によると、「哲学的な歴史」には生物学も含まれており、これは『国富論』執筆中に研究したがさほど進歩しなかったと回想されている。

スミスの生物学研究の成果が最もよく表れているのは、『哲学論文集』収録の「外部感覚について」である。これは認識に関する論考で、主題は「本能と経験」にある。生まれつきの本能を備えた動物はそれを基礎に経験を重ねて成長するという視点は、ジョン・ロックやデイヴィッド・ヒュームの素朴な経験論哲学への問題提起となっている。スミスが本能と経験に関して論じる際に基づいているのが、リンネ『自然の体系』である。たとえば鳥類について、生まれた直後から自分で餌を啄むものと親鳥から口移しでもらうほかないものの 2 種類あるとか、蠕虫類について目も耳も持たないが生きるために動き回るという指摘であり、これらはリンネ『自然の体系』第 10 版（1758-1759）以降に追加された内容である。スミス旧蔵書には同著第 12 版（1766-1768）が含まれていることから、外部感覚論の執筆時期は 1767 年以降であると推測できる。また、生物学関係でいえばビュフォン『自然誌』のアムステルダム版（第 1-3 巻は 1750 年、第 4-15 巻は 1766-1771 年）もスミスは所蔵しており、『国富論』にはその引用があるものの文中で大きな意味を持つわけではない。

最後に東京大学のスミス文庫について、1781 年作成の蔵書目録が含まれているのは他にない特徴である。同目録には各書架・各棚の排架状態が記されており、分析の価値が見いだせる。また電子化・インターネット公開が進んでいる点も高く評価でき、これによってスミス旧蔵の版を直接確認できるし、この作業は研究上必須の手続きとなる。

5. 旧蔵書の意義と限界

各講演で中心となったのはアダム・スミスの旧蔵書であった。それを踏まえ、本節では旧蔵書を研究対象とする際の意義と限界について 2 つの視点を提示する。第 1 に、旧蔵書を主題別に分類して何を語りうるかという視点である。旧蔵書を主題分析して構成や特徴を解明することは意義深く、旧蔵者の収集傾向・思想的基盤を知ることができる。書物とその所蔵者の生み出す作品の間には関連性があり、思想形成過程を読み解く手がかりを与えてくれる。このとき、ある人物の蔵書傾向と作品傾向が接近している場合でも乖離している場合でも、整合的な説明を試みることに研究意義がある。その一方で、旧蔵書を主題分析するにあたってどのように公平性を確保するのかという問題がある。既成の図書館情報学的な主題目録法に基づくのか否かはもとより、書物の主題を捉えるのは単純でない。主題の数をどう設定するか、主題の精粗をどの水準に設定するか、主題にどのような語（件名）を採用するか、作者の執筆時・所蔵者の読書時・現代という 3 契機で解釈の変化しうる主題[10]をどう扱うかは、いずれも蔵書の分析結果に影響を与える重要な判断である。主題数に関し複数主題を採用する場合は、付与する主題数をどう設定するか、複数主題に重みづけ[11]を適用するか否かなど判断が必要である。主題の精粗や件名は、その蔵書の特徴を最もよく表しうる選択が望ましい。主題解釈の変化に関しては、論理的にいえば所蔵者の読書時を想定すべきであろうが、特定は困難かつ不確実なためかえって公平性を欠く可能性がある。

第 2 に、書物の所蔵・閲読・影響の 3 局面をどう捉えうるのかという視点である。この 3 つの局面において、確実な連続性は保証されていない。旧蔵書の意義として、所蔵の事実が閲読・影響の傍証となり、その確実性を高めることがある。とはいえ、ある書物を持っていることと読んでいることは別問題であるし、その書物から影響を受けているかどうかはより不確実である。したがって厳密にいうと、蔵書というモノから確実に引き出せるのは所蔵という事実のみであり、所蔵者による引用・明示的な言及・パラフレーズがある場合

などには、閲読や影響の局面にまで踏み込むことができる。それ以外の方法で閲読や影響を断定するには、丹念な傍証固めが必要である。たとえば所蔵者の書簡にその書物に関する記述があるとか、所蔵者の著した作品中に、ある書物に限定的な特徴に基づく記述があるとか、そうした傍証がある場合には閲読や影響についていうことができる。

6. 重層的な「知の継承」

各講演を通じて実感したのは、「知の継承」という本講演会に与えられたタイトルの妙であった。ここでいわれている知の継承は、重層的な意味を持っている。1 つは思想的な継承である。書物は所蔵者の思想的基盤と継承を体現し、それに基づいて生み出された新しい書物はまた誰かの蔵書になって影響を持ちうるという連続的関係性である。スミス文庫に関していうなら、先人によって形成された知識や思想はスミスの知的淵源となり、彼が生み出した作品は現代に生きる私たちの知的淵源となっている。この思想的な継承は直接的とも単線的とも限らず、間接的・複線的・対立的な要素もまた含まれている。もう 1 つは物理的な継承である。書物は所蔵する人と場所を変え、経年などにより状態が劣化すれば適切な処置をもって受け継がれてきた。スミス文庫に関していうなら、スミスが集めた蔵書はその一部分が遠く海を渡って東京大学に収められ、震災や戦争を潜り抜け、適切な保存措置がとられて今に残る。書物の物理的な継承は自然的でなく、すべて人が関わり尽力した証拠である。1920 年 7 月に新渡戸稲造がロンドンで買い付けた 303 冊が約 3 か月の船旅を経て東京大学に収められたことは感慨深いし、1923 年 9 月の関東大震災の際にスミス文庫が職員によって搬出されて難を逃れたこと[12]、1945 年 6 月に同文庫を含む貴重書が疎開させられて戦禍を免れたこと[13]、1957 年 9 月に製本家の助力を得て修復を終えたこと[14]にもすべて、書物を取り巻く人々のただならぬ思いが働いている。

野原報告と貴重書収蔵庫オンライン見学でも言及されたように、東京大学経済学部資料室では現在、紙媒体と電子媒体の両側面から貴重資料を保存する試みを行っている。資料に燻蒸処理を施して虫害予防対策を行ったり、すでに劣化・破損した資料に保存措置を講じたりと資料の現物保存に努めるほか、資料の電子化も積極的に進めている。資料の電子化公開は新しい形の「知の継承」であり、利点が大きい。第 1 に、電子媒体による代替物を作製することで紙媒体の利用回数を減らし、現物への物理的負担を緩和することができる。第 2 に、電子化した時点での紙媒体の状態を電子媒体に記録することができ、その記録は時間を経ても繰り返し利用しても変化しない。第 3 に、電子化公開した資料は、場所や時間といった物理的制約を超えて利用が可能になる。このように電子媒体は、紙媒体と同じく書物を後世に伝えるだけでなく、紙媒体にはない利点を追加する。難点には、電子化の経費・フォーマットやソフトウェアなど標準規格の未整備・媒体変換やデータ移行に要する経費・公開環境の維持に要する経費などが挙げられるが、現状では利点を優先させる形で所蔵資料を電子化する動きが世界各国の図書館で広がっている。

東京大学のアダム・スミス文庫も電子化が進められ、全 315 冊のうち 240 冊が公開済み[15]であり、インターネット環境さえあれば場所も時間も関係なくスミスの旧蔵書を閲覧することができる。現在、有償・無償の様々なフルテクスト・データベースで膨大な資料が電子化公開されているものの、古典資料は同版異刷においてテクストまで異なる場合[16]もあるため、スミスが所蔵していた現物を電子化すること、その現物に残された蔵書票や書込みも記録することに重要な意味がある。

こうして電子化が進めば、世界各地に分散したスミス旧蔵書を仮想空間上でもとの 1 つに戻すようなことが、目録水準だけでなく現物水準でも理論的には可能である。さらに、スミス本人が作成させたという 1781 年の蔵書目録のデータを取り込み、同じく仮想空間上でスミスの書棚を再現することもできるかもしれない。

今回の講演会は、書物の思想的および物理的な継承という 2 側面に光を当て、それぞれにおいても重層性を示唆するものであった。最も強く印象に残ったのは、知の継承は「現物ありき」という事実であった。スミスがアリストテレスを知るのも、私たちがスミスを知るのも書物という物理的媒体を通じてである。書物がモノである以上は、移動・分散・紛失・破損・劣化といった危険性に晒され続けるほかなく、書物を守り受け継ごうと尽力した人々の存在が思い起こされた。書物は電子媒体に変換され新しい形で知を継承するが、モニターを介さない直接的な視覚認識・手触り・重さ・においを複製して焼き付けることはできない。現在では表紙や見返しなども含め書物全体を電子化する事例も増えているが、製本構造や製紙技術までは判別がつかないため、研究目的によっては紙媒体の現物調査が必要になる。東京大学経済学図書館および経済学部資料室が、先人の書物への思いを受け止めつなぐ形で、紙媒体と電子媒体の両側面から貴重資料を保存する試みを続けていることの意義が改めて伝わる講演会であった。

（ふくだ　なつこ：松山大学人文学部准教授）

---

1) 本稿では、アダム・スミスの旧蔵書のうち東京大学所蔵分に限って言及する場合に「（アダム・）スミス文庫」と表す。「（アダム・）スミス旧蔵書」という表記は文脈により、同旧蔵書全体を指す場合と、購入前の東京大学所蔵分を指す場合の両方ある。

2) ホッブズ『リヴァイアサン』の初版（1651）は東京大学のスミス文庫に入っている。

3) Adam Smith, *A Catalgue of Books Belonging to Adam Smith, Esqr. 1781* ([sine nomine], 1781).

4) James Bonar, *A Catalogue of the Library of Adam Smith: Author of the "Moral Sentiments" and "The Wealth of Nations,"* 2nd ed (Macmillan, 1932).

5) Hiroshi Mizuta, *Adam Smith's Library: A Catalogue* (Clarendon Press,Oxford University Press, 2000).

6) 現在は故人で、2018 年 1 月 24 日に逝去した。

7) 本報告の参考文献は次のとおりであった。佐藤全弘・藤井茂, 新渡戸稲造事典（教文館, 2013）; 新渡戸稲造全集編集委員会, 新渡戸稲造全集（教文館, 1969）; 新渡戸稲造・矢内原忠雄, 新渡戸博士植民政策講義及論文集（岩波書店, 1943）; 東京女子大学図書館, 新渡戸稲造記念文庫目録（東京女子大学図書館, 1992）; 北海道大学文学部新渡戸研究プロジェクトチーム, 新渡戸稲造文庫目録（北海道大学文学部新渡戸研究プロジェクトチーム, 1999）; 設楽舞, "東京大学大学院経済学研究科所蔵「新渡戸稲造旧蔵書」について：その概要と特徴," 東京大学経済学部資料室年報 2 (2012): 95‑103, https://doi.org/10.15083/00027668; 東京商科大学附属図書館, 左右田文庫目録（Bibliothek der Handels-Universität Tokio, 1942）; 森脇優紀・福田名津子・小島浩之, "「1950 年代のアダム・スミス文庫に関する覚書」校注," 東京大学経済学部資料室年報 9 (2019): 15‑38, https://doi.org/10.15083/00079148; Daisuke A, "The Wrong but Influential Image of Adam Smith in the 20th Century Japan: What the Adam Smith Library and Nitobe Suggest," 經濟學論集（東京大学大学院経済学研究科） 82, no. 3 (2019): 23‑30, https://doi.org/10.15083/00076870.

8) 本報告の参考文献は次のとおりであった。高哲男, "アダム・スミスにおける本能の概念化と経済学の生物学的基礎," 商経論叢（神奈川大学経済学会） 43, no. 1 (2007): 113‑53, http://hdl.handle.net/10487/8300; 高哲男, アダム・スミス：競争と共感、そして自由な社会へ, 講談社選書メチエ（講談社, 2017）.

9) Mizuta, *Adam Smith's Library: A Catalogue*.

10) 所蔵者の読書時で主題解釈が変化しうるというのは、たとえば古典作品などで、作者の執筆時から数百年経って所蔵者がそれを手にした時代では、主題の解釈が変わっている場合が考えられるためである。さらにいえば、所蔵者は本来意図された主題とは別の目的でその書物を入手することもある。

11) 主題の重みづけとは、主題の重要度を定量評価することをいう。たとえば主題数を 3 として蔵書構成を算出する際に、最も主要と見なせる主題には 0.5、中間には 0.3、中間に次ぐ主題には 0.2 という異なる「重み」を与える。複数ある主題に重みづけをしない場合は、主題数が 1 なら 1、主題数が 2 なら 0.5 ずつの重みを与え

ることになる。

12) 東京大学百年史編集委員会, 東京大學百年史（東京大学出版会, 1986）, http://hdl.handle.net/2261/00078984, 936 頁. 同震災で、全体として「四万冊にも及ぶ蔵書のほとんどは灰燼に帰した」（同書, 936 頁）といわれ、エンゲル文庫は 9 割以上を焼失した。

13) 東京大學百年史, 1005 頁. 図書疎開の案が動き出したのは 1945 年 2 月であった。疎開先として、甲府市山梨県立図書館・長野県更級郡八幡村の田村練忠宅・山形県西置賜郡東根村の奥山源内宅・山形県東村山郡高擶村の佐藤荘右衛門宅の 4 か所が決定し、スミス文庫は保管設備の整っている山梨県立図書館に預けられることになった（同書、1005 頁）。

14) 森脇・福田・小島, “「1950 年代のアダム・スミス文庫に関する覚書」校注”に詳しい。修復に先立つ劣化調査は 1954 年に行われ、全般的に表装の革の傷みが激しく、他にも関東大震災の搬出時に火を浴びたり水を被ったりと深刻な損傷を負っていることが判明した。経済学部教授であった大河内一男は製本家服部政祐に対し、現在でいう「原形保存の原理」を厳密に守るよう説明したという（同, 21-22 頁）。

15) 2021 年 2 月現在のデータに基づく。

16) よく知られる事例はホッブズ『リヴァイアサン』で、初版異本が 3 種確認されている。同書は標題紙に印刷された装飾模様（ヴィネット vignette）の違いから、ヘッド版・ベア版・オーナメント版と区別され、テクストにも若干の相違がある。東京大学のスミス文庫に含まれているのはヘッド版である。